

# 経済同友会設立趣意書

(昭和 21 年 4 月 30 日)

日本は今、焦土にひとしい荒廃の中から立ち上ろうとしている。

新しい祖国は、人類の厚生と世界文化に寄与するに足る真に民主主義的な平和国家でなければならない。日本国民は旧き衣を脱ぎ捨て、現在の経済的、道徳的、思想的頹廢、混乱の暴風を乗り切って、全く新たなる天地を開拓しなければならないのである。これは並々ならぬ独創と理性と意力と愛国の情熱とを要する大事業である。

われわれは経済人として新生日本の構築に全力を捧げたい。而して日本再建に経済の占める役割は極めて重要である。蓋し経済は日本再建の礎石であるからである。われわれは日本経済の再建を展望しつつ、惨たる荒廃の現状を顧みて、責務の重大なるを痛感する。今こそ、同志相ひきいて互いに鞭うち、脳漿をしぼって、我が経済の再建に総力を傾注すべき秋であるまいか。

本会は日本経済の堅実なる再建を標榜する中堅経済人有志の機関であるが、その立場は飽くまで経済職能人若しくは経済技術者としての立場を採る。従って政治的立場は無色である。われわれは何れの政党からも自由であるが、しかし職能人として政策には関与する。而して各政党が経済政策が洵に貧困を極めている現状に於いて日々の生産に足場をもつ職能人の経験と知識が国の政策に充分に生かされなければ日本経済の秩序ある再建は覚束ないと言える。

なお此の点について、本会は中央経済団体と緊密な連繫を執り充分に協力して行きたい。

本会は他面、会員が相互に啓発し合い切磋琢磨する教室でもあり、また気楽に親交を温める倶楽部でもある。